

特定非営利活動法人 日本小児血液・がん学会
第16回（平成26年度第4回）理事会議事録

日 時：2014年8月1日（金） 11：00～17：30

場 所：AP品川「D」ルーム

出席者：堀部敬三（理事長）

越永従道（副理事長）

井上雅美、大賀正一、小川千登世、小原 明、菊田 敦、嶋 緑倫、滝 智彦、

田尻達郎、田中祐吉、野崎美和子、檜山英三、堀 浩樹、前田美穂、

米田光宏（以上理事）

田口智章、花田良二（以上監事）

小田 慈（第56回学術集会会長）

杉田完爾（第57回学術集会会長）

黒田達夫（第58回学術集会会長）

欠席者：なし

議長：堀部理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は16名中16名であり、定款27条2項に定める定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I 議事録署名人の選出

田中祐吉理事、田尻達郎理事が選任された。

II 前回理事会議事録（案）の確認

修正なく承認された。

III 審議事項

1. 学会あり方委員会の提案について（堀部学会あり方委員長）

資料に基づき、以下の提案および議論がなされた。

1) 関連学会との連携のあり方について

本学会が主体となって日本の小児がん医療、AYA世代のがん医療、移行医療の実態把握と学術研究の推進を図るべく、小児がん連携協議会（仮称）を設置することが提案され、承認された。なお、当面の連携学会として、日本脳神経外科学会、日本整形外科学会、日本血液学会、日本眼科学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本産婦人科学会（または婦人科腫瘍学会）、日本泌尿器科学会、日本頭頸部外科学会（または耳鼻咽喉科

学会) が挙げられた。

2) 地方会創設とそのあり方について

新たに地方会を創設するよりも、既存の地域で行われている研究会を地方会と位置付けるのはどうかという提案がなされた。専門医単位 8 単位が取得できるようなクオリティの集会を目指し、今後専門医制度委員会で要件を検討していくこととなった。また、地域により事情が異なるため、小児血液・がんセミナーの開催における連携地域ごとに検証することが先決であり、まずは全国 7 ブロックで開催予定の小児血液・がんセミナーを成功させることが重要であることが確認された。

3) 学会の国際化のあり方について

アジアを対象とし、国際化を図ることが確認された。わが国と対等の連携（韓国、シンガポールなど）が可能な国がある一方で、わが国が援助する必要がある国もある。なお、韓国との連携は実務レベルで進行中であり、次はシンガポールとの連携を計画することが確認された。

4) 英文 Official Journal について

①PBC

引き続き交渉を進めることが確認された。

②IJCO

日本癌治療学会より Official Journal ではなく Affiliated Journal として受け入れることなら可能であるという回答を得たが、再度議論した結果、Official Journal および Affiliated Journal いずれも当面白紙とすることとなった。

また、Official Journal の必要性そのものについても引き続き議論が必要ではないかという意見が出された。

5) 学術集会における患者支援団体との関係のあり方について

①学術集会における支援団体との関係について、従来学術集会会長一任であったが、学会主導で基準を設けて整理をすることが提案された。また、がんの子どもを守る会に限定せず、開かれた対応が望ましいという意見が出された。なお、三者（本学会・日本小児がん看護学会・がんの子どもを守る会）の関係は明確にわかるような公告の方法をとることが確認された。

②団体から会場使用の申し出があった場合、ブースの一時使用および催しものなどのための会場使用は、会長判断にて基本無償で提供することが確認された。また、がんの子どもを守る会の助成研究のポスター掲示発表の場は、本学会ポスター会場とは別の場所を無償にて提供することが確認された。

6) 事業年度について

①役員選挙を次期事業年度開始前に行い、新役員は総会での承認をもって任期開始とすることが提案され、大まかな方針について承認された。本件については、選挙の方法（電子投票・郵送投票）を含む定款施行細則の改定として、次回以降の理事会で審議

することとなった。

②法人格および事業年度の見直しについて提案がなされ、同様に次回以降の理事会で検討を行うこととなった。

7) その他

日本小児がん看護学会から、抄録の学会誌掲載にあたり、事前に「(日本小児がん看護学会部分については) 著作権が日本小児がん看護学会に帰属する」ということを著者に明示してほしいと要請があり、承諾したことが報告された。

2. 定款施行細則の改定について (野崎規約委員長)

ワーキンググループの設置、会費未納者への措置、賛助会費の金額に関する条文の変更が提案され、若干の修正を経て承認された。なお、賛助会費の金額の変更に関しては、2014年度の総会承認をもって正式に施行されることが確認された。

3. 止血・血栓委員会のガイドライン承認について (嶋止血・血栓委員会担当理事)

「小児血友病患者に対する中心静脈カテーテル使用のコンセンサスガイドライン (案)」が回覧された。JSPHO ニュースで告知の上で、本学会会員を対象にパブコメを一か月間募集し、最終版を策定することとなった。

4. 第 58 回学術集会運営業者選定について (黒田第 58 回学術集会会長)

運営会社 (3 社) からヒアリングを行い、協議の結果、第 58 回学術集会の運営会社は MA コンベンションコンサルティング社に決定した。

IV 報告事項

1. 第 55 回学術集会会計報告 (田口第 55 回学術集会会長)

- 1) 352 万 1,590 円の黒字となったことが報告された。
- 2) 事務局人件費の支出明細に誤記が指摘された (単価および人員の表記の誤りであり、収支の数字には影響しない)。

2. 庶務報告 (越永副理事長)

会員異動状況の報告があり、また 56 名中 55 名の新入会希望者について入会が承認された。内 1 名は所属機関が未登録であったため、事務局から問い合わせを行い、次回理事会にて入会承認とすることとなった。

3. 常設委員会報告

1) 庶務委員会 (越永委員長)

特になし。

2)財務委員会（前田委員長）

- ①会費納入状況の報告がなされた（会員全体で 88.22%※2014 年 7 月末現在）
- ②2 年以上会費未納者（92 名）の一覧が回覧され、9 月末までに納入なき場合は予告の上で自然退会処理を行うことが承認された。
- ③会計中間報告がなされた。厚生労働省委託緩和ケア等事業については、学会本体の会計には影響しないことが補足説明された。

3)社会・広報委員会（檜山委員長）

- ①一般用ホームページの改訂を検討中であることが報告された。改訂の際には、疾患登録に関する詳細な事業案内と登録データを掲載するページを新たに作成することが提案・承認された。
- ②国際委員会と協力のもと、英語版ホームページの作成を進めることが確認された。

4)学会誌編集委員会（嶋委員長）

- ①資料に基づき、学会誌 51 巻 2 号の発行進捗状況の報告がなされた。
- ②発刊スケジュールが慢性的に遅れているため、次号（51 巻 3 号）は厳守（9 月発刊）することが確認された。

5)規約委員会（野崎委員長）

委員会規定（案）を作成していない委員会は、次回理事会までに策定し、事務局へ送付するよう依頼がなされた。

6)倫理委員会（前田委員長）

懲罰規定の作成を検討することが確認された。

7)利益相反委員会（田中委員長）

- ①次回理事会までに COI 委員会を開催し、学術集会演題の COI 自己申告書を確認することが報告された。
- ②学術集会発表者用の COI 自己申告書は、現状では役員および委員の書式と全く同じものを流用している。厳密には項目が異なることから、書式の見直しの要望があり、今後委員会で検討することとなった。

8)保険診療委員会（小川委員長）

診療報酬改定に向けた準備および未収載薬品についての取り組みを続け、場合によってはワーキンググループを組織して活動していく予定であることが報告された。

9)学術委員会（越永委員長）

- ①現在、学術賞の応募を受け付け中であり、9 月に委員会を開催し授賞候補論文を決定する予定であることが報告された。
- ②学術賞の表彰および受賞講演は、昨年同様、総会に引き続き行うことが確認された。
- ③大谷賞の選考手順を確認の上、近日中に評議員および名誉会員へアンケートを依頼する予定であることが報告された。

10)教育・研修委員会（大賀委員長）

- ①厚生労働省委託事業の一環として、8月3日に山口で「小児血液・がんセミナー」を開催予定であることが報告され、テキストとリーフレットが回覧された。
- ②同セミナーについては、今年度全国7ブロックで開催を予定していることが報告された。
- ③例年同様、学術集会中の教育セッションの内、がん治療認定医の新規申請単位として認められるセッションの確定およびがん治療認定医機構への申請を進めることが確認された。

11) 学術集会プログラム委員会（田尻委員長）

資料に基づき、7月1日および7月24日に委員会が開催され、プログラム編成の検討を概ね終えたことが報告された。

12) 専門医制度委員会（米田委員長）

- ①認定外科医15名・研修施設1件・研修集会3件の認定候補について、一覧が提示され、承認された。（全て認定日は2014年4月1日に遡る。）
- ②第1回専門医試験について、申請書類を確認・審査中であることが報告された。

13) 疾患登録委員会（小原委員長）

資料に基づき、以下の報告（一部審議）がなされた。

①小児慢性見直し作業進捗状況

「診断の手引き」作成は終了している。「疾患概要」「脳腫瘍」「血小板疾患」が未完である。

②委員会規程案が提示され、異議なく承認された。

③他学会（日本血液学会および日本小児外科学会）との連携について提案され、承認された。

④平成28年1月1日から本施行される「がん登録等の推進に関する法律」制定を受け、厚労省がん登録推進懇談会が開催され、家原知子委員が出席したことが報告された。意見集約しなければならない項目として、小児がんの年齢、良性悪性の境界疾患がある。後者については地域がん登録手引き改訂第5版にすでに悪性新生物として掲載されており、これを追認することとした。

14) 国際委員会（堀委員長）

①英文 Official Journal について

Ⅲ-1.-4)を参照。

②KSPHO との交流について

本学会とKSPHOとの協定書案が提示され、承認された。8月末にKSPHO理事会で承認が得られたら、11月の学術集会で正式に調印式を行う予定であることが報告された。

③SIOP 日本招致委員会のメンバーについて

SIOP 招致委員会委員として別紙の通り候補者が挙げられ、異議なく承認された。

④アラブ首長国連邦シャルジャ大学病院への医師派遣について

2名の応募あり、具体的な条件・時期等について調整中であることが報告された。

⑤小児血液・がん領域での国際貢献について

開発途上国の小児血液・がん診療病院への英語図書寄贈プロジェクトを準備中であることが報告された。

15) 診療ガイドライン委員会（菊田委員長）

資料に基づき、小児がん診療ガイドライン改訂の進捗状況について報告がなされた。次回理事会に最終原稿提示し、パブリックコメントの募集を経て、来春の発行を予定していることが報告された。

16) 評議員資格審査委員会（井上委員長）

平成26年度評議員申請要項が学会誌51巻2号巻頭に掲載される予定であることが報告された（申請締切は9月末日）。

17) 臨床研究倫理審査委員会（滝委員長）

資料に基づき、現在の審査状況が報告された。

4. 疾患委員会報告

1) 造血細胞移植委員会（井上担当理事）

本学会から一元管理委員会（造血細胞移植）への推薦委員（4名）が提案され、承認された。

2) 再生不良性貧血・MDS委員会（大賀担当理事）

特になし。

3) 血小板委員会（菊田担当理事）

特になし。

4) 止血・血栓委員会（嶋担当理事欠席）

中舘委員が委員辞任の意志を示したことが報告され、辞任について承認された。

5) 白血病・リンパ腫委員会（滝担当理事）

資料に基づき、今後の委員会活動方針について報告がなされた。まれな白血病の研究の調査依頼先は、基本的には個人ではなく施設長宛てにすることが確認された。

6) 組織球症委員会（前田担当理事・委員長）

特になし。

5. その他委員会報告

1) 学会あり方委員会（堀部委員長）

Ⅲ-1. を参照。

2) 緩和ケア等事業委員会（越永委員長）

厚生労働省委託事業「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（CLIC）」の開

催状況および今後の予定について報告がなされた。

6. 学術集会準備報告

1) 第 56 回日本小児血液・がん学会（小田会長）

資料に基づき、プログラムの予定について報告がなされた。また、教育セッションにおけるがん治療認定医の単位適応申請については、教育・研修委員会と確認しながら進めることとなった。

2) 第 57 回日本小児血液・がん学会（杉田次期会長）

あらためて会期・会場の確認がなされた。

会期：2015 年 11 月 27 日（金）～11 月 29 日（日）

会場：甲府富士屋ホテルおよび常盤ホテル

3) 第 58 回日本小児血液・がん学会（黒田次々期会長）

Ⅲ-4. を参照。

7. その他

1) 泌尿器科学会からのアンケートについて

泌尿器科学会から医療事故に対する学会の取り組みに関するアンケートがあり、回答内容について報告がなされた。

2) 小児科学会分野別アンケートについて

来春の小児科学会の分野別シンポジウムとして「小児がん領域における新薬および新規治療法の開発」を提案し、採用される予定であることが報告された。

3) 次回理事会は 10 月 10 日（金）11 時～17 時予定。

以上